

## 須賀下東遺跡（すがしたひがしいせき）

所在地：銚田市野友須賀下 859-1 ほか  
調査期間：平成 29 年 4 月 1 日～ 8 月 31 日  
調査面積：7,227 m<sup>2</sup>  
委託者：国土交通省関東地方整備局常総国道事務所  
調査原因：東関東自動車道水戸線（潮来 IC～銚田 IC）建設事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（銚田事務所）  
Tel.029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

### 遺跡の立地

当遺跡は、銚田市の中央部、北浦へ流れる巴川右岸の標高約20mの台地上に位置しています。過去に行われた遺跡分布調査では、当遺跡は多数の鉄滓が出土したことで知られています。

当遺跡が存在する台地上には、野友古墳群や、隣接する宿台遺跡などをはじめ、縄文時代から平安時代までの遺跡が多数存在しており、人々の生活の場として好立地であったものとみられます。

### 調査の成果

今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけての各時代の人々の生活の跡を確認することができました。調査範囲は、最近まで畑地として使用されていたため、完全な姿をとどめていた遺構や遺物は数少ない状況です。

今回の調査で特筆されるのは、平安時代の鍛冶工房跡 1 棟を確認したことです。第 1 号鍛冶工房跡は、長径約 6 m、短径約 5 m の楕円形で、深さ約 1 m の堅穴です。床面の中央部には、複数の鍛冶炉や土坑が構築されています。それらの覆土からは轆（ふいご）の羽口や金床石をはじめ、鉄滓や鍛造剥片、粒状滓などの鍛冶関連遺物が数多く出土しています。膨大な羽口や鉄滓などの出土量から、長期間にわたって繰り返し作業されていたことが窺えます。

これらのことから、平安時代の当集落には、鍛冶にかかわる工人集団が存在し、集落内はもちろん、周辺の集落にも鉄素材や鉄製品を供給していたと考えられます。



須賀下東遺跡と周辺の遺跡

地図は「いばらきデジタルまっぷ」を加筆



第 1 号鍛冶工房跡（平安時代）



繰り返し作業された鍛冶炉

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。資料の引用・掲載はご遠慮願います。

第1号鍛冶工房跡(平安時代)



鞆の羽口(前)と金床石(後)



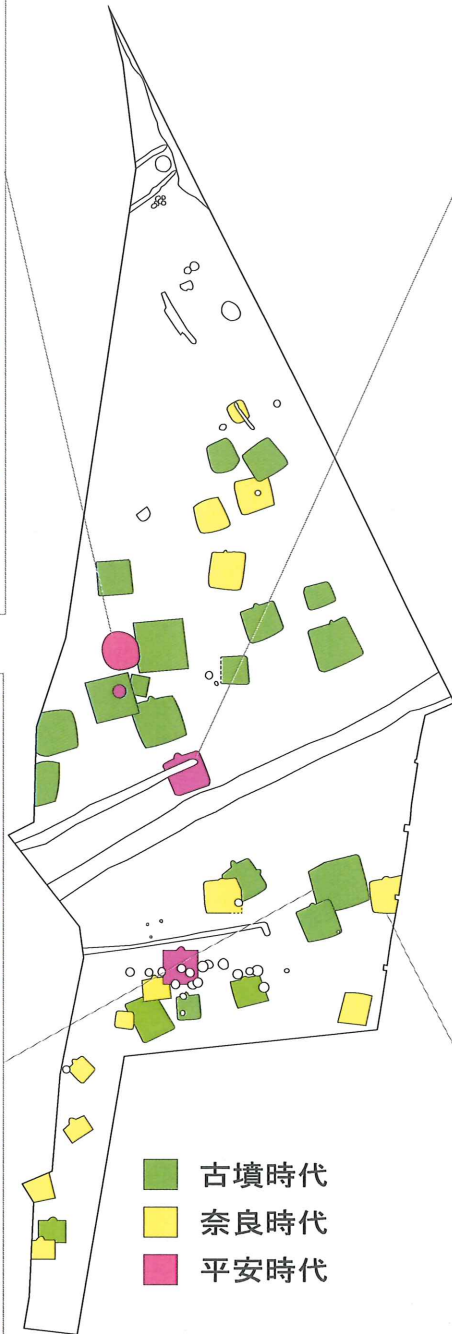
膨大な量の鉄滓



第19号竪穴建物跡(古墳時代)



壁際に置かれた炉器台



0 40m

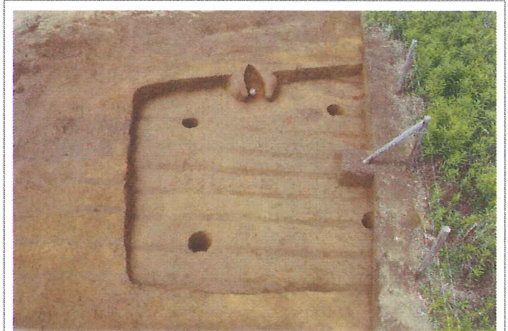
竪穴建物跡を中心とした遺構配置図



第27号竪穴建物跡(平安時代)



柱穴から出土した須恵器坏



第6号竪穴建物跡(奈良時代)



竈内から出土した須恵器坏



次回の発掘調査遺跡現地説明会は、9月3日(日)に那珂市の下大賀遺跡で開催する予定です。